

第1回 市町村・公民館等職員専門研修 実施レポート

日時：令和6年7月24日（水） 参加者：32名（うち市町村から28名）

会場：秋田県生涯学習センター 講堂

生涯学習・社会教育関係者、公民館や市民センター等社会教育施設職員に求められる資質や力量を高めることを目的とし、1回目の研修を「公民館と防災」というテーマで行いました。「避難所を設営する側」と「避難する側」の双方を体験するワークショップの後、実際の避難所運営に必要なことについて、体験に基づいた意見交流をしました。

【講義・演習】

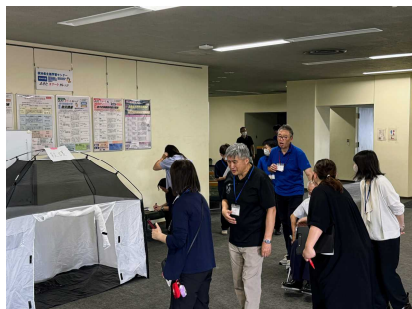
日本赤十字秋田短期大学講師**及川 真一**氏が、「公民館と防災～避難所設営の考え方～」と題し講義・演習を行いました。講義では、様々な災害の際に現地に駆けつけボランティア活動を行っている自身の経験を基に災害現場での写真を示した上で、防災を学ぶ上で重要なことは『守りたい何かをどう守れるか』であると強調しました。そして公民館での防災講座の必要性を説かれ、「個々の自助力がなければ、他人を助けるのは無理である。だからこそ自助力を高める取組が公民館には求められている」と強く述べられました。演習では、参加者は段ボールベッドやキャンプ等で利用される簡易ベット、屋内用テントの設営を行いました。実際に避難所を運営する際、どのような準備が必要になるのか、どのような形状や仕組みのものがより効果的であるのかを体験的に学びました。



【ワークショップ・グループ協議】



参加者は2グループに分かれ、センター講堂を公民館に見立てて避難所を設営するワークショップに取り組みました。どのような準備や手続きが必要なのかをグループで検討し、その後、避難所運営側と避難者側に分かれ、実際の避難者受け入れを体験しました。避難者側になったグループは、認知症を患っていたり、家族が行方不明のため気持ちが不安定で泣き叫んだり、いらだって大声で叫んだりなど、様々なタイプの避難者を役割演技しました。それに対して、避難所運営側は本部や受付を設置するなど受け入れを円滑に行うための工夫をしました。その後、避難所運営側と避難者側との役割を交換し、両方の立場を体験しました。グループ協議では、実際には多様な避難者を受け入れた後も避難所の運営は続くことを確認し、避難所運営の体験から気付いたことを意見交流することで、事前の訓練や準備の必要性を再認識したようでした。



最後に及川先生は、今後の公民館の役割と取り組むべき事業について、防災講座や災害時の体制の見直し、職員の訓練など「災害への備え」と「住民のつながりを深める取組や事業」の二つについて、その必要性を強調されました。そして、その取組の根底には「楽しさ」を考えることが大切であると述べられ、「楽しいから学びたくなる」が防災を学ぶ際に大切にしたいことであるとまとめられました。

【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・ 学びたいと思っていたこと以上の知識を得られました。避難所設営については正解がないのですが、いろいろな情報を集めて、さらに役立つ知識と経験を学びたいと思います。
- ・ スマートフォン講座を開設するなど災害時に役立つ操作方法を学ぶ機会の提供やコミュニティ形成が守られるよう避難所のレイアウトも日頃から考えておく必要性を感じた。